平成 21 年度 ExTEND2005 リスクコミュニケーション推進検討部会　第 1 回会合
'10.02.19.

参考資料　2

H21 第 1 回化学物質の内分泌かく乱作用に関する検討会
09.11.09

資料　5

「ExTEND2005」の今後の進め方について（案）

1．経緯

環境省では、1998 年（平成 10 年）5 月に内分泌かく乱物質問題への対応方針について「環境ホルモン戦略計画 SPEED '98」を取りまとめ、これに基づき化学物質の内分泌系への作用に関する研究や環境実態調査等の施策を推進した。

具体的な取組としては、内分泌かく乱作用の有無、強弱、メカニズム等を解明するため、優先して調査研究を進めていく必要性の高い物質群として、65 物質をリストアップし、そのリストに基づいて調査研究を推進した。

その成果やその後の国内外の動向を踏まえ、2003 年（平成 15 年）より 2 カ年にわたり改訂ワーキンググループを設置し、改訂内容の検討を行い、2005 年(平成 17 年)3 月に「化学物質の内分泌かく乱作用に関する今後の対応方針について－ExTEND2005」を新たに策定した。

「ExTEND2005」においては、①野生生物の観察、②環境中濃度の実態の把握及びばく露濃度の測定、③基盤研究の推進、④影響評価、⑤リスク評価、⑥リスク管理、⑦情報提供とリスクコミュニケーション等の推進、の 7 つの柱を基に総合的な施策の推進を図ることとなった。

今年度は「ExTEND2005」策定から 5 年が経過するため、これまで進められてきた研究成果をレビューするとともに、今後検討が必要な課題について抽出しつつ、今後どのように進めていくのか考える必要がある。

2．検討の進め方について

（1）検討すべき事項

①5 年間に実施した研究、作用・影響評価などの成果の取りまとめ
②今後の進め方に関する方針の検討
③重点的に実施すべき課題の抽出

（2）検討の体制

上記の検討にあたっては、本検討会の下に設置されている各部会（作用・影響評価検討部会、基盤的研究企画評価検討部会、野生生物の生物学的知見研究

検討部会、リスクコミュニケーション推進検討部会）において分野ごとに上記の内容について検討し、本検討会で取りまとめることとする。

３．今後のスケジュール

各部会においては、今年度中に5年間の研究成果のまとめと今後の課題について検討する。各部会で取りまとめた内容を踏まえて、平成22年6月頃までを目途に「化学物質の内分泌かく乱作用に関する検討会」において、今後の進め方についての検討を行う。